

令和 8 年 (2026 年) 新年のご挨拶



生涯をより豊かに過ごすために 積極的な学び直しを！

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

代表理事 金子勝治



お陰様で楽学の会は、昨年創立 30 年を迎えました。今年も新たな気持ちで地域に住むシニア世代の方々の学び直しの支援を行って参ります。

日本人の長寿化は進み平均寿命が、女性 87.1 歳、男性 81.1 歳と、世界でも 2 位、高齢化率は 30% となっています。しかし、心身の衰えは以前と比較して 5 年から 10 年ほど遅くなっています。シニアと呼ばれる年齢になっても元気で過ごす方が年々増加しています。そんな中で、シニア期の学び直しは、リタイア後の生活の活力になるうえ、新たな交友関係を築くきっかけにもなります。シニア期をより豊かに過ごすために学ぶ、「生涯学習」の概念を基に、仕事のためではなく質の高い学びを求める、人生をより豊かなものにするための学び直しという行為自体にやりがいと満足感を感じ、さらに認知症対策や新たな交友関係を築くために積極的な学び直しに取り組んでいるシニアの方も少なくありません。趣味や地域活動、ボランティアなどで、自己の人格を磨きその成果を社会に活かすことで豊かな人生を送りましょう。

令和 1 年度 大学塾 第 4 ステージ 開催案内

「豊臣秀長」と 「日本史のナンバー2」たち！

令和 8 年度 NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟」の主役は 豊臣政権の「ナンバー 2. となる秀吉の弟秀長です。千利休切腹事件や朝鮮出兵、関白秀次切腹事件といった負の出来事はすべて「ナンバー 2. の秀長の死後に起きています。

そこで秀長をメインに日本史上に登場する「ナンバー 2. たちの活躍を史料に基づいて解説します。



講 師：跡部 蠡(あとべ ばん) 氏 歴史研究家/博士(文学)江戸ぶら会 会長
 日 時：2 月 14・21・28 日(土曜日)全 3 回 午後 2 時～4 時

会 場：足立区生涯学習センター(学びピア 21 内)5 階 研修室 1

講 義 内 容： 第 1 回 豊臣秀長「出生」と「豊臣一族」の謎

第 2 回 「ナンバー 2. として兄秀吉を支える

第 2 回 日本史を彩る「ナンバー 2. 列伝

(聖徳太子・藤原不比等・高 師直・細川頼之・一橋慶喜)

令和7年度 大学塾 第3ステージ 開催報告

幕末の真実を探る！

12月2日・9日・23日（火）の3回にわたり、足立区生涯学習センター研修室1にて開催された。募集定員50名のところ応募者は57名、出席は第1回51名・第2回49名、第3回32名で、延べ132名、であった。

講師は小説家・写真家・登山家の穂高健一氏、令和4年度「幕末の足立 桜田門外の変・徳川埋蔵金・新撰組」及び令和5年度「篤姫と和宮 大奥から見た幕末」について3回目の講座となった。先生の作品は純文学から歴史小説まで幅広いが、足立区民大学塾では幕末が多く最新作では近現代の歴史小説に取り組んでいる。

1 ペリー来航の目的は学術調査だった。

1853年に米国のペリー提督が江戸湾の浦賀沖にやってきた。艦隊には博物博士、植物採集の担当者が乗船していた。かれの任務は米大統領国書（開国・通商・捕鯨船の確保）を将軍に手交する。太平洋航路の中継地点の確保である。もう一つの任務として鎖国日本を学術開国させることであった。

細長い列島に約7,000の島がある。海流・気候は変化に富み新種の動植物の宝庫である。これまでオランダが博物学を含めた学術を独占していた。ペリー提督は世界にむけて日本学術開国させることであった。多数の海軍士官、下士官らも学術調査を担った。これらが欧州の学術機関に送られた。世界の学者を乗せた船が来航できるように、江戸湾で深調査、潮流・暗礁の調査による精密な海図を作成した。それをアメリカ独占とはせず、世界に発表したことで日本近海が世界航路に組み込まれた。軍事・通商で決定的な意味を持った。

阿部正弘は、ペリー提督が即時の武力行使を意図していないと見極めた。そのうえ、極めて重要な科学的な任務を課せられていると知り、平和裏に鎖国から開国へと決断した。

2 大政奉還 慶喜と討幕勢力の思惑

安政5（1858）年に「安政の五カ国条約」の締結の後、輸出入が年々急上昇した。恩恵の薄い列藩などから、幕府の貿易独占だと批判が上がるとともに、天皇の勅許を得ずに締結したといい、尊王攘夷運動がしだいに過激になった。言論弾圧から安政の大獄が起きた。

桜田門外の変で、大老の井伊直弼が暗殺されると、幕府の基盤が揺れはじめた。和宮降嫁の・幕政改革で、武力対決以外の選択肢がいっとき存在した。ここから薩英戦争、下関戦争、禁門の変、第一次、第二次の長州戦争が起る。さらに徳川家茂将軍の死去、孝明天皇の急死による政局が極度に不安定になった。

慶応3（1867）年十五代将軍の慶喜が政権を朝廷に返上した。国家の主権は朝廷にあって、制度・法律の一切は京都の議政所（国会）からであるべきだとした。上院（公家・大名）と下院（選挙で選出された議員）からなる上下二院制の議会とする。ところが、制度化の前に慶応三年の十二月九日に小御所会議のクーデター（王政復古の大号令）で、実現はしなかった。

3 錦の御旗と明治新政府

鳥羽伏見の戦いから戊辰戦争へと事態が移っていく。薩摩側による「大坂城から、慶喜が逃げた」というプロパガンダと、「錦の御旗」という正統性の演出があり、西の諸藩が朝廷方の東征軍についていた。慶喜や会津は朝敵になり、やがて勝海舟と西郷隆盛による江戸城の無血開城となった。だが、戊辰戦争は上野戦争から、奥越列藩同盟との戦いになった。戊辰戦争が終わった九月には明治天皇が正式に誕生した。明治維新は民衆革命ではなく、下級武士を中心とした権力移行（政変）による新政府の誕生であった。富国強兵が政策の柱だった。経済発展と軍事力強化を両立であった。初期の施策は、「軍事国家化」であり、藩兵（武士）を解体し、軍事力を中央に集中させることで、①廃藩置県（1871）で中央集権国家が成立した。②地租改正（1873）で、安定した国家財政の確保、③姓名の強制（1870～）（戸籍＝兵籍）。④学制（1872）識字率向上で、近代軍隊の兵士を育成する。⑤徴兵令（1873）武士の特権を解体し国民皆兵とする。徳川幕府はすでに「近代化の方向性」をもっていたが、明治政府はより軍事化を加速し、「国民国家」へとスケールアップした。つまり、「国家の軍事力」を高めたのである。

《受講者の意見》

・歴史の表に出てこない話が聞けて興味深いです。・「世界史の中で日本を見る」というお話は大変参考になりました。近視眼的な物の見方の危うさが分かりました。・坂本竜馬の船中八策の事実を知ることができてよかったです。・日米通商条約の話が意外だった。司馬史観の反論が面白かった。・今まで自分の頭の中に入っていた事と違っていたり、え！ そうだったのと言う所が多くあって知識の浅さが、新めて知った事が多かったです。・幕末に対する視点が違って色々な説を体現できた。竜馬や阿部正弘については180°見方が変わりました。

（糸井史郎）



令和7年 12月 運営委員会 報告・連絡

日 時：令和7年12月1日（火）14:30～15:00
場 所：生涯学習センター：5階 研修室4

代表挨拶

皆さまご苦労様です。

いよいよ、今年も最終月なりました。この1年は、限られた小人数での運営となりましたが、皆さんのご協力により何とかやってこれたことを深く感謝申し上げます。また、新会員の獲得に向けても引き続き努力してまいります。12月開催の講座は、「幕末の真実」3回講座で23日が最終日となります。ニュースの印刷は24日午前中、当日の午後発送となりますので、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

インフルエンザが蔓延しています。重症化を防ぐため十分な感染予防対策を行ってお過ごしください。

議 事

（1）情報交換

- ・当会会員 原田 進様 11/5 死去 H13年入会 長く事務局で活躍頂きました。合掌
- ・国立教育政策研究所 公開シンポジウム「これからの中高生としての社会教育を考える」
12/13（土）13:30～ 文科省 3階講堂
- ・八王子生涯学習コーディネーターの会 より会報56号受領
10/25 第21回八王子 生涯学習フェスティバル開催
10/13 府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」を訪問、府中市生涯学習フェスティバル見学

（2）月例会開催について

- ・11月19日（水）新入会員 古川さんの自己紹介、活動報告
- ・12月17日（水）忘年会：多くの会員の参加をお願いする。
14:00 チラシ封入作業、14:40～15:20 講座検討会議、移動 16:00～忘年会
- ・1月21日（水）：1月運営委員会で検討する

（3）あだち区民大学塾：講座企画会議：12/1（月）、1/6（火）、検討会議：12/17（水）、1/21（水）

- ・12月「幕末の真実を探る！」講師：穂高健一氏、
12月2・9・23（火）研1 応募者56名
- ・2月 NHK 大河「豊臣兄弟」関連 豊臣秀長と日本史のナンバー2たち 講師：跡部 蛮氏
2月14・21・28（土）研1
- ・3月 西洋絵画150年講座 印象派とは何だったのか？ 講師：島田紀夫氏
3月3・10・17（火）講堂

*令和7年度合計 9講座実施見込み（千住宿400年2回開催）

*令和8年度大学塾講座の検討を9月より開始し令和8年度前期5講座ほぼ確定した。

候補案：日本経済：柴田氏、江戸の東郊の寺社 大関氏、
中世古文書（豊臣秀吉他）；高梨氏、森 鷗外講座 倉本氏
京都関連講座（平安京から豊臣秀吉）：大沢氏、

（4）各部局からの報告および提案

- ①学習支援部：チラシ封入作業（2月講座）：12/17（水）15時～ 講座検討会議の前に
- ②ボランティア活動推進部：1月～3月 月例会の内容検討
- ③事務局：ニュース発送 12/1（月）、事務局会 12/10（水）11月決算、
新年号ニュース発送 12/24（水）午後、講師へ源泉徴収票を同封する：ご協力お願い
- ④広報グループ：楽学ニュース323号、ホームページ12/1、メルマガ12/1 227号

（5）会員募集

- ・メルマガ9月1日号以降会員急募を掲載中、ホームページに「入会のお誘い」掲載中
- ・大学塾講座で会員募集案内を実施中
- ・サークルフェア2025のプログラムに会員募集の告知を行う
- ・生涯学習センターの4階に会員募集のチラシ置かせて頂く：10月後半より
- ・足立朝日に新年名刺広告を投稿する予定

（6）その他

- ・社会教育 12月号 回覧

*事務局当番へのエントリーお願いします



次回運営委員会 1月6日（火）14:30から（研4）

以上

生涯学習センター 講座情報

◎講座名：医療やケア 自分のことは自分で決める ACP のススメ

あだち 100 年大学講座

日 時：2/21（土）午前 10 時～11 時 30 分

定 員：40 人

受講料：無料

会 場：足立区生涯学習センター 研修室 1

講 師：伊東 俊雅 氏（東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤師・薬剤部長）ほか

内 容：将来、重い病気にならたら、自力で動けなくなったら……。どんな時でも自分らしくあるために、自分のして欲しいことやして欲しくないことを周囲に伝える方法が、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）です。元気なうちに自分の希望を考えましょう。

◎講座名：地理で魅力再発見！ 景観で読み解く場所の履歴と記憶

あだち 100 年大学講座

日 時：2/22（日）午後 2 時～4 時

定 員：40 人

受講料：800 円

会 場：足立区生涯学習センター 研修室 1

講 師：椿 真智子 氏

東京学芸大学 教育学部 人文科学講座
地理学分野 教授

内 容：景観には、自然環境・風土、そして人々の暮らしの履歴が刻まれています。本講座では、まず景観の意味や何が読み取れるのかを概観し、次に武蔵野台地を事例に、地域の歴史や自然と人間との関係性、そして人々が場所をどう認識・イメージしてきたかを探求します。

お申込みは：電話（03-5813-3730）又は直接窓口
インターネット[近所 de まなびナビ]で検索
イベント・講座情報→講座予約システム



西オーストラリア州ベルモント市との姉妹都市として
作られたベルモント公園「ヒツジとパンパスグラス」

令和 8 年 1 月 月例会のご案内

日 時：1 月 21 日（水）午後 3 時より

内 容：「会員の知識習得研修について」

場 所：別途ご案内いたします。

（ボランティア活動推進部）

楽学インフォメーション

★会合のお知らせ★

- ◎ 運営委員会
1 月 6 日（火）午後 3 時～3 時半 研修室 4
- ◎ 月例会
1 月 21 日（水）午後 3 時～4 時
- ◎ 学習支援部
1 月 21 日（水）午後 1 時半～2 時 研修室 4
- ◎ 事務局
1 月 14 日（水）午後 1 時半～ ワークルーム
- ◎ 広報グループ
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議
1 月 21 日（水）午後 2 時～3 時 研修室 4
- ◎ 大学塾講座企画会議
1 月 6 日（火）午後 2 時～2 時半 研修室 4
- ◎ 生涯学習センター 休館日
1 月 19 日（月）



★お問い合わせ&ご意見

- ◎ 「楽学の会」の運営に関するお問合せ
事務局 福田哲郎 電話:090-3207-8444
E-Mail：tefukuda2002@yahoo.co.jp

編集後記

脱炭素化社会に向けて 地球温暖化がもたらす異常気象の影響！④

（323 号より）

地球温暖化による異常気象は一時的な影響だけでなく、異常気温が日常化することによる影響も懸念されています。代表的な問題が、北極などの氷が溶け出し、海面が上昇することです。海面が上昇すると陸地面積が減り、中には国土全体が海に沈んでしまうリスクを抱えている国もあります。気候変動によって住む場所を奪われてしまう人が出てくると懸念されていて、世界全体で考えなければならない問題です。異常気温によって氷河が溶け出し、大規模な洪水が起きやすくなるとも考えられています。また、氷が溶け出すと河川流域全体の水不足にもつながるかもしれません。このように、異常気温が日常化すると河川や海の水量のバランスが崩れ、多くの問題が発生する恐れがあります。現在、すでに海面上昇の被害がある国・地域として、ツバル、モルディブ諸島、チャゴス諸島、キリバス、マーシャル諸島、トケラウなど、太平洋やインド洋にある島々などは、国土の標高が低く、海面上昇によって国土が水没する危機に直面しています。また、海面の上昇によって土地に塩害があると、育てている農作物がうまく育たず、食糧不足に陥ってしまいます。また、海水を含む帶水層の上部に密度差によってレンズ状に浮いている淡水域を「淡水レンズ」といいますが、島や半島などの周囲を海に囲まれた地域である環礁島の多くは、生活用水の供給を淡水レンズに頼っています。しかし、海面上昇によりその淡水レンズに海水が流れ込んでしまうと、貴重な水を得られなくなってしまい、水不足の危機が危惧されます。

（金子勝治）